



国際インターンシップ

明治大学 政治経済学部 経済学科 3年

寺尾 友宏

サワディー・クラブ！

私は現在、政治経済学部・学部間協定プログラムでタイ国立シーナカリンウィロート大学に1年間の交換留学をしております。

2012年、私が大学2年生のころの夏季休暇に、政治経済学部ではタイへの1カ月の短期留学プログラムが設置されたのですが、第一期生としてそのプログラムに参加したことが交換留学を志す大きなきっかけとなりました。

短期留学プログラムはさまざまな企画から構成されており、その企画のうちの一つで在タイの日系企業を数社、訪問させていただきました。実際にタイでご活躍なさっている日本人の社員の方々にお会いし、お話を伺うなかで、「私も日本人の代表として、海外で働いてみたい」という思いを強く抱きました。そこでタイへの交換留学の目標の一つに、国際インターンシップを掲げることに致しました。

シーナカリンウィロート大学をはじめとしたタイの大学では前期と後期の間に1カ月間の休暇がありますので、その休暇を利用して実際にタイでインターンシップをすることを念頭に置き、留学に参りました。そして前期が無事修了すると、さまざまな先生方の後押しもいただき、「スズキ・モーター・タイランド社」で念願の国際インターンシップを受け入れて頂く運びとなりました。

私の研修先は営業部門の国際担当で輸出入の管理を行う部署でした。月曜日から金曜日の午前8時から午後17時までの9時間を1カ月間、タイ人の現地スタッフの方々に混ぜていただき、色々な経験・勉強をさせていただきました。

輸出入に関する発注書や伝票の作成、工場での輸出物品の確認、取引先へのメール業務等を主に務めさせていただきました。学生にとっては不慣れな先述の業務に加え、タイ人の社員の方々との意思の疎通は基本的にタイ語であり、指示を注意深く聞いて理解するだけの集中力と語学力が求められておりました。未熟な私の語学力では同じことを何度も説明させてしまったこともありましたが、社員の方々が根気よく指導して下さい、とても優しく接して下さい、ということが非常に印象的でした。

また、「微笑みの国」との呼び声高い国だけあり、人々は非常にあたたかく、その優しさに甘えてしまいがちですが、その優しさに甘えるだけではなく、日本人としての誇りや精神を持って、タイ人の方々の何倍も努力し仕事をする事の重要性も肌で感じる事ができました。実際に同社において一番早く

会社にご出勤されていらっかったのは、同社の社長でした。ヒトの上に立つということや、タイ人の現地社員の方々と共に仕事をするということは、上司として、日本人として、他人の何倍も汗をかき、信頼を勝ち取らなければならないことのように感じました。またそのひたむきで努力家な日本人としての理想像は、他人の倦厭しがちな仕事にでも嫌な顔せず率先して取り組んでいくべきだとする、私たち明大生としての理想像と大いに重なり、就職活動前のこの時期に、今一度自分を見つめなおす良い機会となりました。

この貴重な経験を通じて、私は学校では決して学ぶことのできない大切なことを学ぶことができたと考えております。皆様も是非、タイ留学や国際インターンシップをご検討されてみてはいかがでしょうか。



インターン先のスズキ・モーター・タイランド社で（前列右から 5 番目が筆者）

【てらお ともひろ ・ 政治経済学部 協定留学生（交換留学生）

2013 年 5 月よりシーナカリンウィロート大学（SWU）に留学中】